



## シリーズ 「私たちの思い」

山下 理道 (やましたのりみち)

柏崎刈羽原子力発電所

第二保全部長

平成5年入社

福島第一原子力発電所で原子炉メンテナンスを行う部署にいた平成23年、東北で大きな地震が起きたことを出張先の広島で知りました。部下から「原子炉を安全に停止できた」と二報を受けホッとしたのも束の間、通信回線がパンクし現場の情報が取れなくなりました。翌日、何とか東京の本社にたどり着き、燃料が冷やせなくなっていることを知ったとき、福島第一はどうなってしまうのか、地域の皆さまや現場の仲間たちは大丈夫かと、不安がこみ上げてきました。です、数日後やっと福島第一に戻り、仲間たちが現場を守るために一致団結している姿をみたときには、本心に頼もしく心強く感じました。それから数年間、調査や復旧、廃炉計画の策定と、廃炉に関わる業務に携わるなかで、なぜ事故を起こしてしまったのか、なぜ事故を食い止めることができなかつたのかと何度も考えました。もう誰にも、あのような思いはさ

せたくありません。

私は昨年夏から、柏崎刈羽原子力発電所で安全対策工事の全体を管理する業務にあたっています。工事をしっかり進めるには、安全な作業現場であること、そして経験豊富な人たちの知恵や知識を若い世代に引き継いでいくことが大切だと思います。私は毎週、若手と一緒に現場を巡回する時間をつくっていて、この機器はなぜこのような形状になっているのか、この工事の目的は何か、など多くの質問を投げか

# 積極的なコミュニケーションを通じて、安全への思いを共有し対策を進めていく

けます。彼らには、あらゆる業務について常に疑問を持ち、わからないことは先輩社員や協力企業の方からも学んで知識を深めて欲しいと考えています。

当社は免震重要棟の耐震性に関して、新潟県の皆さまに迅速・丁寧な説明ができず、大変なご心配とご不安をおかけしてしまいました。発電所の取り組みについて、技術的な視点だけではなく、皆さまはどう感じるだろうか、ご不安はないかなどの考えを持ち、行動できていなかったことは大きな反省です。

発電所の抱える課題や問題に対して、ひとつの部門だけで考えるのではなく、皆さまの安全、安心という視点で部門の垣根を越えコミュニケーションを取りながら改善策を考えていくことが大切だと思います。発電所の仲間たちと安全への思いを共有しながら対策を進めていくためにも、自らが率先して行動していきます。



平成29年6月撮影

昨日より今日、今日より明日。私たちは、より高い安全レベルを目指し挑戦を続けます。

シリーズ「私たちの思い」は、WEBでもご覧いただけます。

TEPCO 新潟本社 <http://www.tepco.co.jp/niigata/index-j.html>



東京電力ホールディングス 新潟本社

025-283-7461

9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始除く)

TEPCO